

みこむだこ

旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会
〒140-0001 品川区北品川2-2-10 TEL 03-3472-4772 FAX 03-3472-4770
URL <http://www.japan-city.com/sina/> E-mail: syukuba@cts.ne.jp

迎春

旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会
会長 堀江 新三

新年明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては、健やかに新しい年を迎えられたことと、お慶び申し上げます。旧年中は皆様方の多大なるご理解とご協力により、さまざまな事業や行事を無事に行ってこれたことを、この紙面をお借りいたしまして、心から御礼申し上げます。本年も相も変らぬご理解とご支援を心よりお願い申し上げます。

昨年、10月1日に新幹線品川駅が開業し、我が品川宿周辺に関してマスコミ各社の取材も飛躍的に増加しました。開業3日前に開催された「しながわ宿場まつり」では、実行委員会や地元商店街に開業ムードを盛り上げていただいたお陰もあり、前年より2万人も多い、実に10万人を越える人出があり、本当に全国より品川宿が注目をされている、ということを実感いたしました。また、テレビ・ラジオ番組、新聞、雑誌等にも品川宿周辺が数多く取り上げられ、かつて無いほどのPR効果があったものと心から嬉しく思っております。

さて、ここで皆様方にお考え願いたいのは、「何故こんなにも、品川宿に対しマスコミが注目したのか？」と言うことです。確かに新幹線の駅が開業すると言うことは確かに便利になるという素晴らしいニュースでありますし、新しいビルが立ち並ぶと言うことも凄いことだと思います。しかし、今までもずっとそうでしたが、新しいスポットだけのところは、次にまた新スポットが出来ると、人はそちらへ流れてしまいます。それは何故でしょうか？私が思うに、街にオリジナルの顔の部分がないからだと思います。どこへいっても新しく出来た街は同じ景色ではないでしょうか？しかし品川には、新幹線の駅や新しい街のすぐ隣に、昔から綿々と伝承された文化や人・風情のあるまちや水辺が残っています。この新旧の融合こそが、今、日本全国探してもどこにも無い、品川だけのオリジナルの顔であり、最大のセールスポイントなのではないでしょうか。

昨年、11月21日には江戸開府四百年祭のエンディング前夜祭として、薩摩藩江戸上り隊甲冑行列・おはら踊り隊・仙台藩士会の皆様、総勢100余名の方々の行列をはじめ、交流会ではさらに全国の街道から大勢、品川宿においていただきました。これも、東海道一の宿（親宿）という看板があり、地元人が根を張って暮らし続けていると言う魅力があるからだと思います。

新幹線品川駅開業の影響で、最近では東海道を歩かれる新しいお客様が増えてまいりました。このように、品川宿が全国から注目を浴びている現在こそが、今後の品川宿周辺の活性化につながるための、いまだかつて無い最大のチャンスとっております。今動かなくて、いつやるのか？ここ数年が本当に品川宿周辺を活性化して、大きく変える最初にして最後のチャンスだと思っております。

本年中にはまちの有志が集いNPOを設立して独自の事業を行い、利益を品川宿に投資して活性化をしていこう、と言う動きも出てきます。また水辺の活用の仕方を考え直そうという動きも出てきております。このような動きにも、当協議会は積極的に後押しをしていきたいと思っております。

私どもまちづくり協議会は、本年を品川宿再生の絶好の機会と位置づけ、全力で活動をして参る所存であります。皆様方におかれましても、品川宿周辺の魅力や、まちの秘めているポテンシャルの大きさを再認識していただき、品川宿再生に向けてのご理解と多大なるお力添えをいただけますよう、切に心よりお願いを申し上げます。

第13回宿場まつり報告



今年9月27日28日の2日間、新幹線品川駅の新駅開業直前と言うタイミングもあり雑誌、新聞、テレビ等多くのマスコミの事前の宣伝、報道もあり第13回宿場まつりは開催の前から今までに無い盛り上がりを感じさせていました。まつりにかかわった人は勿論、商店街、町会の人たち、まつりを応援してくれている企業の方々にも取材を受けて頂き、側面から応援をしていただきました。27日土曜日は正午から露店や模擬店が品川地区を中心に出現し、大道芸、ジャグリングも行われ、旧道は大いに盛り上がりました。

聖蹟公園では、特設舞台でゲスト歌手と、アクトズスクールの主催による公開オーディションが行われ、未来の歌手や、芸能関係を目指す子供たち（小学生から高校生）が元気に歌などを披露し多くの観客から品川から未来のスターが出現することを祈っての拍手を送られていました。



28日日曜日はいよいよ本番当日です。朝の7時から準備の人たちで街は真様な高まりを見せていました。10時には早くも露店、フリーマーケット、模擬店などが開き、多くのお客様でにぎわい始めていました。11時にはスタンプラリーがスタート。そして12時に近くなるとパレード出発の鳥入つ山に集合し始めた人々、それを見ようとする人々、パレードの先頭付近には一日番長を務める小倉優子さんが準備しておりその周りには圧倒されるほどの報道の人、カメラ

マンが来ていました。新聞各社、テレビ局全社がそろっている光景でした。11時45分になると実行委員長、区長、署長、一日番長の小倉優子さんが挨拶、ハーレーオートバイ隊、品川寺の山伏を先頭にパレードは青物横丁の品川寺を目指して出発しました。後続には品川女子学院のマーチングバンド、

おはやしに先導された今年



は例年にも増して大人数の江戸風俗町人行列、人力車、かごと各パフォーマンスの人たち、阿波踊りと続きました。沿道の人数の多さでパレードはしばしば立ち往生し少し遅れはしましたが無事に到着しました。そして江戸風俗の人達は当日の気温の高さと時間が長かった為、今年は特別に品川寺の別の間で休ませていただきました。その別の間で休息をしている姿は、建物の雰囲気もありまさに江戸次郎にタイムスリップしたような錯覚におちいりながら出演された方々も感激していました。



旧東海道沿いは、三島などの宿場からの参加もあり、沿道は一日人が絶えることはありませんでした。

聖蹟公園では様々な出し物、パフォーマンス、そして3時30分からは豪華景品の当たる抽選会が行われ、その後は黒澤博オンステージが繰り広げられ夕方までにぎわっていました。そして今までで最高の10万人の人の出た第13回宿場まつりは夜の8時までにはぎわい、名残惜しみながら今日一日をそれぞれ色々な思いを抱きつつ来年も開催するという思いを新たに終了しました。



滋賀県石部宿での東海道シンポジウムに参加

10月18日、「第16回 歴史の道 東海道シンポジウム 石部宿大会」が開催され、区役所の清水さん、観光協会の大船さんを含め品川から7名が一泊二日で開催しました。

石部は東海道の五十一番目の宿場、京から江戸へ向かう旅人が最初に泊る所として、また伊勢参りの通行の要所として栄えたところ



です。琵琶湖の南に位置し東海道本線の本線から草津から草津線まで二つ目、ずいぶん遠く感じますが、我々は新幹線開業間もない品川駅から「のぞみ」に乗り、近くなった京都を経由しましたが3時間ちょっとの行程でした

13:00、石部町の老人クラブの方々による寸劇から始まり、セレモニー、講演、パネルディスカッション、参加宿場の紹介と進み、最後に次回大会開催地である神奈川宿の決起演説で閉会しました。

その後の宿場交流会は、石部町には大きな宴会場がないとのことで、お隣の草津のホテルで盛大に行われました。毎度のことですが、うまい酒と料理に酔いしれ各地の方々とも交歓し楽しい夜を過ごしました。

翌19日は「石部宿まつり」に参加してから、江戸時代の宿を復元した「宿場の里」や、国定公園の常楽寺、旧東海道の街道みちを見学し帰路につきました。



「大磯・宿場まつり」に参加



11月2日は、恒例の大磯・宿場まつり、我等6人は大量の「品川海苔」とともに万全の体勢で出店しました。

大磯宿のスタッフの方は皆習性的で、主催者側が楽しまなければ参加者も楽しめないという考えが徹底していて、それがまつりづくりに反映して、年々人通りが増えていっているのを感じました。

今年も快晴のなか大変な人出で、前年を上回る売上を記録。気分良く翌日の三島宿への帰りで盛り上がったのが一つ。

「秋の三島大通り商店街宿場まつり」に参加

大磯に引き続き11月3日、三島の宿場まつりに今年は6名で出店しました。三島の皆さんもまちづくりに熱心で、出店参加の宿場も多く、大変大きな規模のまつりになっています。

しかし、前日のお天気が何処へやら、朝から小雨が降り続き、一時は本降りの悪天候。客足もナッパリで意気揚々と、大磯の三分の一程度の売上をやっとでした。

お祭りはやっぱり天気の影響が大きいですね。

我がメンバーも、例度も空を仰ぎ、「お客さんが通ってくれなきゃ売りようが無いよ!」の、捨て台詞、しょんぼり散会となりました。

来年は頑張るぞ!



しながわ花海道（勝島運河）

雑草だらけだった勝島運河の両岸をお花畑にしようと言うプロジェクトが平成14年7月にスタートした。このプロジェクトは鮫洲と立会川の商店街が立会川地域のコミュニケーションと活性化、更には、品川の新しい名所を自



分たちの手で作り観光スポットにしたい、そんな願いが込められている。勝島運河の両岸には1.5m四方の畑が約1000枚あり応募された一般の方や諸団体の皆さんが自分の畑のつもりで花の種をまき、手入れをして育てています。1回目の種まきは悪条件が重なり失敗、その後夏はひまわり、秋はコスモスがきれいに咲き乱れ花海道を訪れる人をなごませてくれました。11月16日はコスモスを刈り取り、菜の花の種をまきました。来春は花海道一面が菜の花畑になることを期待しながら寒い冬を乗り切ろうと思っています。

追 花畑はまだまだ空いています。ごいっしょに花畑作りを楽しみませんか？

お問い合わせは
しながわ花海道花畑プロジェクト事務局
東大井 2-24-11 5763-9565

品川宿オールドフューチャー プロジェクト報告

5月に、沖縄アクターズインターナショナルの協力でスタートした「品川宿オールドフューチャープロジェクト」も着々と進行しつつあります。旧道沿いにプロジェクト準備室もでき、9月27日の第13回宿場まつり・前夜祭において開催された「第1回目沖縄アクターズインターナショナル新人発掘オーディション in 宿場まつり」をきっかけとして品川歌劇団結成に向けて動き出しています。品川からスターが出る日もそう遠いことではなさそうです。舞台に立つタレント候補だけではなくエンターテインメントを創るグ

ループとして「品川塾」を設立しました。6月の天王祭前夜祭・おいらん道中での運営のお手伝いや宿場まつりでのオーディション制作や茶屋娘としての出演、アトラクションのお手伝い等でイベントのサポートに参加しています。「品川塾」は多方面からの問い合わせも多く全国へ波及していく勢いで、今後楽しみです。



祝開府400年祭フィナーレ

『お江戸寄り合い』前夜祭 in 品川宿

11月21日（金）午後3時より品川寺から旧道を八ッ山まで、戻って新馬場北口通りを通して品川神社まで、さつま江戸登り隊の甲冑隊、かごしまおはらおどり隊、仙台藩志会総勢約100名によるパレード行われました。途中品海公園では北一町会、本通り商店会の好意により、休憩中にお茶と団子の接待をしていただきました。品川神社では道中の安全祈願のお祓いを受けました。

同日午後6時30分健康センター7Fにて～宿場来福、往きつ還りつ400年～
全国街道交流会議『お江戸寄り合い』前夜祭

が行われました。「薩摩琵琶」、仙台藩志会による「剣祓い」が披露されるなか、品川からは品川楽友会によるお会式・万灯が披露されました。

翌22日（土）午前8時30分聖跡公園にて『江戸登城ウォーク』『御三家登城隊』の発式がおこなわれました。早朝から集合したウォーキングの人たち約240名に、品川宿からということで熱いお茶とコーヒーをふるまいました。



第13回宿場まつり報告



今年9月27日28日の2日間、新幹線品川駅の新駅開業直前と言うタイミングもあり雑誌、新聞、テレビ等多くのマスコミの事前の宣伝、報道もあり第13回宿場まつりは開催の前から今までに無い盛り上がりを感じさせていました。まつりにかかわった人は勿論、商店街、町会の人たち、まつりを応援してくれている企業の方々にも取材を受けて頂き、側面から応援をしていただきました。27日土曜日は正午から露店や模擬店が品川地区を中心に出現し、大道芸、ジャグリングも行われ、旧道は大いに盛り上がりました。

聖蹟公園では、特設舞台でゲスト歌手と、アクトズスクールの主催による公開オーディションが行われ、未来の歌手や、芸能関係を目指す子供たち（小学生から高校生）が元気に歌などを披露し多くの観客から品川から未来のスターが出現することを祈っての拍手を送られていました。



28日日曜日はいよいよ本番当日です。朝の7時から準備の人たちで街は真様な高まりを見せていました。10時には早くも露店、フリーマーケット、模擬店などが開き、多くのお客様でにぎわい始めていました。11時にはスタンプラリーがスタート。そして12時に近くなるとパレード出発の鳥入つ山に集合し始めた人たち、それを見ようとする人たち、パレードの先頭付近には一日番長を務める小倉優子さんが準備しておりその周りには圧倒されるほどの報道の人、カメラ

マンが来ていました。新聞各社、テレビ局全社がそろっている光景でした。11時45分になると実行委員長、区長、署長、一日番長の小倉優子さんが挨拶、ハーレーオートバイ隊、品川寺の山伏を先頭にパレードは青物横丁の品川寺を目指して出発しました。後続には品川女子学院のマーチングバンド、

おはやしに先導された今年



は例年にも増して大人数の江戸風俗町人行列、人力車、かごと各パフォーマンスの人たち、阿波踊りが続きました。沿道の人数的多さでパレードはしばしば立ち往生し少し遅れはしましたが無事に到着しました。そして江戸風俗の人達は当日の気温の高さと時間が長かった為、今年は特別に品川寺の別の間で休ませていただきました。その別の間で休息をしている姿は、建物の雰囲気もありまさに江戸次郎にタイムスリップしたような錯覚におちいりながら出演された方々も感激していました。



旧東海道沿いは、三島などの宿場からの参加もあり、沿道は一日人が絶えることはありませんでした。

聖蹟公園では様々な出し物、パフォーマンス、そして3時30分からは豪華景品の当たる抽選会が行われ、その後は黒澤博オンステージが繰り広げられ夕方までにぎわっていました。そして今までで最高の10万人の人の出た第13回宿場まつりは夜の8時までにはぎわい、名残惜しみながら今日一日をそれぞれ色々な思い出を抱きつつ来年も開催するという思いを新たに終了しました。



滋賀県石部宿での東海道シンポジウムに参加

10月18日、「第16回 歴史の道 東海道シンポジウム 石部宿大会」が開催され、区役所の清水さん、観光協会の大船さんを含め品川から7名が一泊二日で開催しました。

石部は東海道の五十一番目の宿場、京から江戸へ向かう旅人が最初に泊る所として、また伊勢参りの通行の要所として栄えたところ



です。琵琶湖の南に位置し東海道本線の本線から草津から草津線まで二つ目、ずいぶん遠く感じますが、我々は新幹線開業間もない品川駅から「のぞみ」に乗り、近くなった京都を経由しましたが3時間ちょっとの行程でした

13:00、石部町の老人クラブの方々による寸劇から始まり、セレモニー、講演、パネルディスカッション、参加宿場の紹介と進み、最後に次回大会開催地である神奈川宿の決起演説で閉会しました。

秋 石部宿大会宿場交流会選

その後の宿場交流会は、石部町には大きな宴会場がないとのことで、お隣の草津のホテルで盛大に行われました。毎度のことですが、うまい酒と料理に酔いしれ各地の方々とも交歓し楽しい夜を過ごしました。

翌19日は「石部宿まつり」に参加してから、江戸時代の宿を復元した「宿場の里」や、国定の常楽寺、旧東海道の街道み等を見学し帰路につきました。



「大磯・宿場まつり」に参加



11月2日は、恒例の大磯・宿場まつり、我等6人は大量の「品川海苔」とともに万全の体勢で出店しました。

大磯宿のスタッフの方は皆習性的で、主催者側が楽しまなければ参加者も楽しめないという考えが徹底していて、それがまつりづくりに反映して、年々人通りが増えていっているのを感じました。

今年も快晴のなか大変な人出で、前年を上回る売上を記録。気分良く翌日の三島宿への帰りで盛り上がったのが一つ。

「秋の三島大通り商店街宿場まつり」に参加

大磯に引き続き11月3日、三島の宿場まつりに今年は6名で出店しました。三島の皆さんもまちづくりに熱心で、出店参加の宿場も多く、大変大きな規模のまつりになっています。

しかし、前日のお天気が何処へやら、朝から小雨が降り続き、一時は本降りの悪天候。客足もナッパリで意気揚々と、大磯の三分の一程度の売上をやっとでした。

お祭りはやっぱり天気の影響が大きいですね。

我がメンバーも、例度も空を仰ぎ、「お客さんが通ってくれなきゃ売りようが無いよ!」の、捨て台詞、しょんぼり散会となりました。

来年は頑張るぞ!



しながわ花海道（勝島運河）

雑草だらけだった勝島運河の両岸をお花畑にしようと言うプロジェクトが平成14年7月にスタートした。このプロジェクトは鮫洲と立会川の商店街が立会川地域のコミュニケーションと活性化、更には、品川の新しい名所を自



分たちの手で作り観光スポットにしたい、そんな願いが込められている。勝島運河の両岸には1.5m四方の畑が約1000枚あり応募された一般の方や諸団体の皆さんが自分の畑のつもりで花の種をまき、手入れをして育てています。1回目の種まきは悪条件が重なり失敗、その後夏はひまわり、秋はコスモスがきれいに咲き乱れ花海道を訪れる人をなごませてくれました。11月16日はコスモスを刈り取り、菜の花の種をまきました。来春は花海道一面が菜の花畑になることを期待しながら寒い冬を乗り切ろうと思っています。

追 花畑はまだまだ空いています。ごいっしょに花畑作りを楽しみませんか？

お問合せは
しながわ花海道花畑プロジェクト事務局
東大井 2-24-11 5763-9565

品川宿オールドフューチャー プロジェクト報告

5月に、沖縄アクターズインターナショナルの協力でスタートした「品川宿オールドフューチャープロジェクト」も着々と進行しつつあります。旧道沿いにプロジェクト準備室もでき、9月27日の第13回宿場まつり・前夜祭において開催された「第1回目沖縄アクターズインターナショナル新人発掘オーディション in 宿場まつり」をきっかけとして品川歌劇団結成に向けて動き出しています。品川からスターが出る日もそう遠いことではなさそうです。舞台に立つタレント候補だけではなくエンターテインメントを創るグ

ループとして「品川塾」を設立しました。6月の天王祭前夜祭・おいらん道中での運営のお手伝いや宿場まつりでのオーディション制作や茶屋娘としての出演、アトラクションのお手伝い等でイベントのサポートに参加しています。「品川塾」は多方面からの問い合わせも多く全国へ波及していく勢いで、今後楽しみです。



祝開府400年祭フィナーレ

『お江戸寄り合い』前夜祭 in 品川宿

11月21日（金）午後3時より品川寺から旧道を八ッ山まで、戻って新馬場北口通りを通して品川神社まで、さつま江戸登り隊の甲冑隊、かごしまおはらおどり隊、仙台藩志会総勢約100名によるパレード行われました。途中品海公園では北一町会、本通り商店会の好意により、休憩中にお茶と団子の接待をしていただきました。品川神社では道中の安全祈願のお祓いを受けました。

同日午後6時30分健康センター7Fにて～宿場来福、往きつ還りつ400年～
全国街道交流会議『お江戸寄り合い』前夜祭

が行われました。「薩摩琵琶」、仙台藩志会による「剣祓い」が披露されるなか、品川からは品川楽友会によるお会式・万灯が披露されました。

翌22日（土）午前8時30分聖跡公園にて『江戸登城ウォーク』『御三家登城隊』の発式がおこなわれました。早朝から集合したウォーキングの人たち約240名に、品川宿からということで熱いお茶とコーヒーをふるまいました。

